(論 文)

博物館各部門の建築的問題点と現状〔2〕

(展示部門・教育普及部門・調査研究部門・管理部門について) ----博物館に関する建築計画的研究(V)----

A STUDY ON THE ARCHITECTURAL PROBLEMS IN SEVERAL DEPARTMENTS OF JAPANESE MUSEUMS FROM THE VIEW POINTS OF MUSEUMS' STAVES, PART [2] (ON THE EXHIBITION DET., EDUCATION DPT., RESEARCH DPT., ADMINISTRATION DPT.)

---Study on architectural planning for museum, Part V----

野村東太*
Tota NOMURA

The object of this paper is to study on architectural problems of japanese museums, and to grasp them in quality and quantity, especially on exhibition dpt., education dpt., research dpt., adminis tration dpt..

The definite results of this paper will be practical and available data inmuseum's design and planning.

The contents of this paper are as follows.

- 1. Introduction.
- 2. Outline of the investigation.
- 3. The present condision and problems in quality on several departments of museums.
- 4. The present condision and problems in quantity on several departments by classification and structural scale for museums.
- 5. Conculusion.

1. はじめに

現状の博物館建築に対しては、従来から種々の問題点が指摘されているが、こうした問題点が計画・設計段階で十分に解決されているとは言い難く、項目によっては、その欠陥がしばしば繰り返されているのが実状である。

本報告は、前回報告《文-1》に引き続いて、今までに実施してきた博物館各部空間の機能や利用状況に関する調査から、明らかになった具体的な問題事例を整理し、それらを、全国博物館の職員に確認することにより、各部空間で発生している問題点を質的・量的に把握し、今後の設計に当たっての具体

的指針を提案することを、目的としたものである。

本報告でも、前回報告と同様に、各部門・各空間 ごとに、まず、一般的な計画要点を記し、つづいて、 質的な考察を具体的実例を列記する形式で示し、最 後に、これらの実例の主なものについて、量的な考 察と、これらの問題に対して博物館側が行っている 対策について示している。

質的考察は、前回報告に示した調査 I・II によるもので(注1)、全国の博物館で現実に発生している問題である。その多くは、建築家が細心の注意を払えば避けられる問題であるにもかかわらず、建築家の見落としによる問題点が、その後の計画や設計

*のむら とうた

横浜国立大学 工学部長 全日本博物館学界 会長 に十分フィードバックされておらず、欠陥が繰り返されがちな項目について記したものである。

量的考察は、全国報告に示した調査Ⅲによるもので(注-2)、分析・考察は、館類型(注3)と館規模(延床面積)の2つの側面から行っている(注4)。ただし、調査Ⅰ・Ⅱで調査した問題項目の全てを網羅することは紙数の関係上できないので、比較的数多く発生している項目と、博物館職員から、特に指摘のあった項目を中心に取り上げることとした。

なお、今回報告では、展示部門・教育普及部門・ 調査研究部門・管理部門について報告する。

2. 各部門別の建築計画上の要点と建築的問題点の 質的考察(調査!・IIによる)

ここでは、各部門・各空間ごとに、一般的な建築 計画上の要点を記し、つついて、これらの要点に適 切対応できていない問題点の事例を、既存博物館の 実例のなかから選び、表の形式で記している。

調査された問題点の事例は、多数かつ多岐にわたっているため、紙数の都合で、全てを網羅している訳ではない。したがって、一般に或る程度適切に対処できている建築空間については言及していない。

また、過去には問題であっても、現段階では建築 家の認識が高まり、現状のままでも改善が進みつつ ある項目は、省略してある。

ここで、各部門別・各空間別の主な問題項目をみると、以下の通りである。

2-1. 展示室の来館者動線と空間構成

展示室は、来館者の動線、出入口の位置、多様な 展示パターンなどを考慮した、空間の分け方と配置 を、工夫する必要がある。

特に、特別展示室(企画展示室)の場合は、展示 内容・規模が極めて多様である上、展示替え頻度も 多く、十分な考慮が必要である。

問	題項目	問題項目に対する事例
1~	閲覧動線に けする考慮	*館内の観覧動線が分かりにくく、来館者が見落しがちな展示室がある。 *有料展示室ゾーンと無料展示室ゾーンの、来館者動線分離ができていない。

- *常設展・特別展・プラネタリウムなどで料金が分かれているのに、改札口が一か所のため、無断で他に入場されてしまう。
- *常設展と特別展の展示室が、複数に別れていて、 相互の観覧動線が分かりにくい。
- *観覧動線が、バイパスのない一筆書きの空間構成 のため、動線上の一部の展示室だけの展示替えが しにくい。

空間構成に対する考慮

- *年々収蔵資料が増え、展示壁面を増やしたいが、 スペースの余地がない。
- *レプリカ展示・ジオラマ展示・実演展示などを加 えて、展示内容の一新を計りたいが、スペースが ない。
- *大型資料を展示できるスペースと、必要な天井高 さがない。
- *設計当初から常設展示室しかないため、特別展を 行いたくても、できない。
- *特別展の展示内容を充実したいが、十分対応できるスペースがない。
- *特別展の規模によっては、常設展示室まで使用し その間、常設展示を中止せざるを得ない。
- *展示室が小部屋に分かれているため、一連のテーマによる展示がしにくい。
- *ワンフロアーの面積が小さく、展示室が複数の階 に分かれているため、一連の展示内容が分断され てしまう。
- *設計当初と、資料類型や内容が変わってきたが、 広さや天井高などの制約で、展示できない。
- *既存の建物を用いた博物館であり、また、文化財 指定建物のため、制限されて、展示が極めてした くい。
- *展示壁面長確保のため、可動展示パネルを数多く 使用すると、観覧者と資料の間の距離が不足し、 観覧しにくい設計になっている。

2-2. 展示室の構造

展示室の構造は、展示内容による自由な展示空間を作るために、平面的にも断面的にも、フレキシビリティーに富んだ構造にする必要がある。と同時に、照明・空調・音響・監視・防災等の諸設備が、いかなる展示空間の変化にも機能するようにしておく必要がある。

さらに、各部の仕上げ材は、来館者の観覧状況や

天井面・天			
天井面・天			
天井面・天	問題項目	問題項目に対する事例	
での作業に対する考慮がされていない。 * 天井が低く、展示できない大型資料がある。 * 天井面のパネル用レールや照明機器・空調機器が 煩雑で、見苦しい。 * 天井が平坦になっていないため、可動展示パネル 用レールが取り付けられない。 * 天井面のハンガーレールが、重い資料の吊下げに 耐えられられない。 * 床面に建築的な段差がついているため、展示構成 が規制されて困る。 * カーペットの床なので、展示資料や展示ケース等 が重いと跡が付き、展示替え後も跡が残る。 * 床材が堅木で、靴音がうるさく、来館者が主に通 る所だけ、カーペットを敷かざるを得ない。 * タイル張り床なので、音響上不都合である。 * 石材の磨き仕上げ床のため、来館者が疲れる。 * 床埋込コンセントの位置が適切でないため、自由 に展示ケースや可動展示パネルが置けない。 壁面・可動 * 展示壁面長が、基本的に不足している。 展示壁面長が、基本的に不足している。 展示壁面が、柱によって分断されており、一壁面 展示パネル	井高に対す	のことを、建築家が考えていない。	出入口する考
原雑で、見苦しい。 *天井が平坦になっていないため、可動展示パネル 用レールが取り付けられない。 *天井面のハンガーレールが、重い資料の吊下げに 耐えられられない。 *床面に建築的な段差がついているため、展示構成 が規制されて困る。 *カーペットの床なので、展示資料や展示ケース等 が重いと跡が付き、展示替え後も跡が残る。 *床材が堅木で、靴音がうるさく、来館者が主に通 る所だけ、カーペットを敷かざるを得ない。 *タイル張り床なので、音響上不都合である。 *石材の磨き仕上げ床のため、来館者が疲れる。 *床埋込コンセントの位置が適切でないため、自由 に展示ケースや可動展示パネルが置けない。 壁面・可動 展示壁面長が、基本的に不足している。 展示壁面が、柱によって分断されており、一壁面	3 7 25	*天井が低く、展示できない大型資料がある。	展示ケ
* 天井面のハンガーレールが、重い資料の吊下げに耐えられられない。 床面に対す *床面に建築的な段差がついているため、展示構成が規制されて困る。 *カーペットの床なので、展示資料や展示ケース等が重いと跡が付き、展示替え後も跡が残る。 *床材が堅木で、靴音がうるさく、来館者が主に通る所だけ、カーペットを敷かざるを得ない。 *タイル張り床なので、音響上不都合である。 *石材の磨き仕上げ床のため、来館者が疲れる。 *床埋込コンセントの位置が適切でないため、自由に展示ケースや可動展示パネルが置けない。 2 - 世面・可動 *展示壁面長が、基本的に不足している。 展示壁面長が、基本的に不足している。 展示壁面が、柱によって分断されており、一壁面 アステースである。 *展示壁面板が、柱によって分断されており、一壁面 アステースである。 *展示壁面板が、柱によって分断されており、一壁面 アステースである。 *展示壁面板が、柱によって分断されており、一壁面 *展示壁面が、柱によって分断されており、一壁面 *アステースを可能を対している。 *アステースを対している。 *アステースを対している。 *アステースを対しているが、中間では、中間では、中間では、中間では、中間では、中間では、中間では、中間では		煩雑で、見苦しい。 *天井が平坦になっていないため、可動展示パネル	に対す 慮
本の表面 が規制されて困る。		*天井面のハンガーレールが、重い資料の吊下げに	
が重いと跡が付き、展示替え後も跡が残る。 *床材が堅木で、靴音がうるさく、来館者が主に通る所だけ、カーペットを敷かざるを得ない。 *タイル張り床なので、音響上不都合である。 *石材の磨き仕上げ床のため、来館者が疲れる。 *床埋込コンセントの位置が適切でないため、自由に展示ケースや可動展示パネルが置けない。 「壁面・可動」 *展示壁面長が、基本的に不足している。 展示パネル *展示壁面が、柱によって分断されており、一壁面		が規制されて困る。	
*タイル張り床なので、音響上不都合である。 *石材の磨き仕上げ床のため、来館者が疲れる。 *床埋込コンセントの位置が適切でないため、自由 に展示ケースや可動展示パネルが置けない。 壁面・可動 *展示壁面長が、基本的に不足している。 展示パネル *展示壁面が、柱によって分断されており、一壁面		が重いと跡が付き、展示替え後も跡が残る。 *床材が堅木で、靴音がうるさく、来館者が主に通	
展示パネル *展示壁面が、柱によって分断されており、一壁面 展え		*タイル張り床なので、音響上不都合である。 *石材の磨き仕上げ床のため、来館者が疲れる。 *床埋込コンセントの位置が適切でないため、自由	アメニ 面も表 2 - 3
慮	展示パネルに対する考	*展示壁面が、柱によって分断されており、一壁面 長が短いため、関係ある一連のテーマが展示でき	展示 展示 アウト て異な

	*可動展示バネルが大きく、重いので使いにくい。
出入口に関する考慮	*展示室への資料搬入の際、扉の寸法が小さく、大型資料が入らない場合がある。 *各展示室の、来館者の入口と出口が同一であるが 狭いため、混雑することが多い。
展示ケースに対する考慮	*展示ケースや展示パネル等が、建築設計とは別に発注・製作されたため、デザインが展示空間に合っていない。 *長い造り付けガラスケースに、出入口が一ケ所しかないため、ケース内での作業が困難である。 *展示ケースが小さいため、借用できる資料が限られる。 *透明度の高いミュージアムガラスを用いているが覗き込んで頭をぶつける観覧者がいる。 *全面ガラスだけで作られた、枠なしのアイランド型展示ケースは、角隅が破損して困る。 *大人には見易い展示ケース寸法だが、子供には見にくい。

ニティを十分に考慮すると同時に、維持管理の 考慮する必要がある。

3. 展示替えのための空間構成:

示替えにともなう、搬出入・解梱包・一時保管・ 資料のチェック、展示資料の移動、展示のレイ ト等は、それぞれの館類型・規模・性格等によっ て異なり、一括しては述べられないが、館の基本属 性ごとに比較的共通のプロセスがあり、これを理解 した上で、機能的に十分に対応できる空間構成にす る必要がある。

	·
問題項目	問題項目に対する事例
展示替えに対する考慮	*常設展示室が空間的に固定されているため、大規模な展示替えが困難であり、来館者が減少傾向にある。 *基礎やアンカーなどを必要とする大規模な重量展示物が多いが、これらの移動や移設に対する建築的対処がなく、展示替えが困難である。 *展示室数に余裕がなく、展示準備室もないため、大規模な展示替えを時々行いたくても、長期間休館になるので、あまり行えない。
	MI 2 2 2 2 1 2 2 2 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2

- *展示壁面が強くカープしているため、平面資料の 展示や、展示ケースの据付けが、しにくい。
- *壁の色が濃いため、展示する資料に合わないこと がある。
- *壁面が白いため、汚れが目立ちやすい。
- *壁面に、展示物や展示パネルを取り付けた後の、 ネジ・釘類の抜き穴の修復跡が、見苦しく残る。
- *建築壁面に、コンセント・照明スイッチ・空調吹 出口・消火栓等々が、分散して設置されているが 位置が悪く、その部分だけ展示ケースや展示資料 が置けなくて困っている。
- *可動展示パネルのレールが、一方向にしか通って いないため、効率的・機能的なパネルの配置がで きない。
- *可動展示パネルの耐久性が乏しく、精度も低いた め、接合部がうまく合わない。

- *原則無休の館のため、展示替えは、開館期間中に 行わざるを得なが、建築的にうまく対応できるよ うになっていない。
- * 各展示室ごとに扉がないため、一部展示室の展示替えの際、他の展示室から作業が見えてしまう。
- *展示替えの際に、展示資料の搬出入動線と、来館 者動線とが交わる。
- *複数の展示室が、位置的に分散しているため、資料搬出入や監視などに、人手が多く必要となる。
- *展示準備室という室が設計上はあるが、実態を知らない狭さのため、単なる、展示補助用具の倉庫にしかならない。

2-4. 展示空間の増改築

展示資料の増加や、展示資料内容・展示手法の変化、来館者の変動等々に起因する、将来の成長変化を、設計当初から正確に予測することは、かなり難しい。

しかし、館類型・立地条件・規模・資料内容等によって共通の傾向があり、これを認識した上で、当初から将来の増改築を考慮した計画を行っておかねばならない。

問題項目	問題項目に対する事例
増改築に対する考慮	*年々、展示資料が増し、大型資料も増えているため、展示室を増築したいが、余地がない。 *建築法規上、制限一杯に建築されており、同一敷地内に増築ができない。 *既存建物の敷地に余裕がないため、別の場所に別館を設けたが、来館者動線だけでなく、館側の事務処理や学芸活動等にも無理が生じている。 *法規上は、上層階に増築できるが、既存の下層階構造が、将来増築を考えていないため、断念せざるを得ない。 *展示空間を改築して大型資料を入れたいが、建物
	構造上、困難である。

2-5. 展示空間の物理的環境

展示室の物理的環境条件として重要な点は、主に、 採光・照明・温湿度・音響・防塵・防犯・防災など である。しかし、展示空間に要求されるこれらの条 件は、来館者の観覧環境維持と資料の保存環境確保 という、二つの相反する内容を含んでいる。このため、両者の条件のバランスを取りつつ設計する困難 さがある。

さらに、資料展示の条件の中にも、相反しやすい 条件として、来館者の見やすさ親しみやすさと、防 災・防犯対策の二つが要求される。

問題項目	問題項目に対する事例
自然採光に対する考慮	* 自然光を主と考え、人工照明を補助的にしか設けなかったため、天候の変化を受けやすく、特に、悪天候や夕方・夜間に、展示室がやや暗い。 * 自然採光を中心とした設計であるが、資料保護のため、展示資料や展示ブランが制約される。 * 壁面開口窓による自然採光であるが、窓際の絵画や彫刻が逆光になり、非常に見にくい。 * 側窓による自然採光であるが、直射日光で資料が劣化するので、常にブラインドをしめている。 * 天窓式自然採光窓の電動ブラインドが、故障などによって、十分機能しないことがある。 * 天窓の固定ブラインドからの直射日光により、季節と時刻によっては、床や資料の上に光の縞ができる。
人工照明に対する考慮	*展示ケースのガラス面とケース回りの照明角度が不適切なため、照明がガラス面に反射したり、照明光が直接観覧視線に入ってきて、展示資料が見にくい。 *展示ケースの照明計画で、ケース回りの照明には気をつかったが、遠くにある照明が、思わぬケースのガラス面に反射して、見にくいことがある。 *法規上の非常誘導灯が、展示ケースに反射して困る。 *来館者の背面上部からスポット照明を当てざるを得ない設計のため、観覧者の影が資料を覆う。特に、覗き込んで資料を見る時に起きやすい。 *天井が暗いのに、床が明るい滑面のため、照明の照り返しが目立ち、疲労する。 *アイランド型展示ケース内の、上部手前の照明カバーが子供の観覧視線を遮断している。 *展示ケース内の各部照度に、むらがある。 *ケース内照明の排熱口がないため、展示資料が影響を受ける。 *照明系統の区分が、自由に間仕切った展示区分と

うまく合わない。

- *展示室の照明操作が、離れた中央監視室で集中管理される設計のため、各展示室内での個別操作ができず、展示替え時のモデリングに困る。
- * ライティングレールの設置位置が悪く、照明器具 の移動が限られるため、展示の自由度が低い。
- *天井面が、暗過ぎる。

空調に対す る考慮

- *展示室が西向きのため、西日の影響が大きい。
- *展示室内に、上下階にわたる大きな吹抜けがあるため、空調効果が落ちる。
- *閉館後には空調を切ると、室内環境にかなりの変 化がでる。
- *壁にある空調吹出し口の位置が悪いため、資料を 展示するにあたって支障がある。
- *空調による空気の流れが、風の影響をうけやすい 展示物にあたるため、吹出し口の前に、制風板を 設けざるを得ない。
- *壁面展示ケース内の空調気流が強過ぎ、掛け軸などが揺れるため、空調が使用できない。

音響に対す る考慮

- *各展示の、解説音の音量や指向性が適切でなく、 隣接する展示の鑑賞妨害になっている。
- *一部の展示室で、大音響による臨場感の演出を行っているが、来館者が展示室に出入りするたびに音が外に漏れる。
- *展示室内に吹抜けがあるため、騒音が上下階に反響し、広い範囲にひろがる。
- *壁面に金属性仕上材を使用しているため、反響が大きい。
- *天井面の吸音性がなく、音が反響する。

塵埃に対す る考慮

- *壁面展示ケースの上部(天井との間)に埃が溜るが、掃除が容易でなく、展示環境が悪くなる。
- *レブリカやジオラマのオーブン展示をしているが 埃や汚れの清掃に難渋する。

防犯・防災 に対する考

- *設計上は監視員を置かず、防犯カメラによる監視 を原則としているが、可動展示パネルの配置によ っては死角が生まれ、そうしたコーナーには監視 員を置かざるを得ない。
- *オープン展示の資料が、盗難にあったことがあり タッチセンサーを設けた。
- *監視設備がなく、監視員の予算もないため、展示 資料の破損や盗難に遭うことがある。
- *屋外展示用の赤外線監視装置が、鳥や動物の動き

で誤作動することがある。

- *地震時のための、展示品固定や免震装置が、全く 施されていない。
- *手狭なため、資料・物品・機材などが通路にも溢れ、防盗上・防災上の危険がある。

2-6. 休憩空間

休憩空間は博物館疲労をいやす空間であり、その 配置・広さは、展示規模・入館者数・観覧動線等に 関わって決定される。

独立した休憩室は、気分転換の空間としての要素が強く、展示室内の休憩コーナーは、展示物を見ながら腰を下ろすため、展示し関連してくる。

問題項目	問題項目に対する事例
休憩空間に 対する考慮	*休憩室に、戸外に面した開口部がないため、気が 休まらない閉鎖的な空間となっている。 *休憩室に展示関連のビデオモニターが置かれているが、休憩のみを目的としている人には、迷惑となっている。 *入り組んだ落ち着いた小休憩室を作ったが、監視が行き届かず、ソファーなどに、いたずらをされた。 *展示室内に置かれた休憩椅子の位置が悪く、落ち着いた休憩の場でもなく、腰かけて鑑賞する場にもなっていない。 *独立したスモーキングルームがない。

2-7. ビデオ・視聴賞空間

ビデオ・その他の視聴覚機器は、展示をサポート する補足的な面が強く、展示室・専用空間・休憩空 間などに設置しているが、利用実態が十分に検討さ れないまま、設けられている場合が多い。

問題項目	問題項目に対する事例
利用形態に対する考慮	*ビデオスペースを広く取ってあるが、利用者が少ない。
	* 一回分の上映時間が長すぎるため、最後まで見る 人が殆どいない。 * ビデオブースの吸音・遮音が十分でないため、個
	々のプースから音が漏れてしまう。

	*機器の操作を来館者に任せているが、故障が多く 発生して困る。 *映像展示の修理は、専門業者に頼まねばならない ため、修理に時間がかかる。
位置に対する考慮	*ビデオコーナーが、エントランスホールに面しているため、ホールの雑音によって音が聞きとりにくい。また、逆にビデオの音がホールに響いて、ホールの雰囲気を壊すこともある。 *展示室内に置かれたビデオからの音や光が、近くの展示観覧の邪魔になる。

2-8. 市民展用空間

市民展用の展示スペースは、館の他の一般的活動とは独立して運営されることが多い。

市民展用の展示スペースを設置するか否かは、博物館全体計画や活動に大きく影響するため、安易に計画すると、その活動が中途半端になるばかりか、博物館本来の活動に支障をきたすこともある。

問題項目	問題項目に対する事例
設置・運営に対する考慮	*市民展用展示と一般展示の性格の差異や、来館者の質・利用内容等が異なることを正確に把握していなかったため、その後、管理や運営に問題が起きている。 *市民の要望によって、限られた面積の中に、無理に市民展用空間を設置したため、本来あるべき館活動のための空間規模や質を損ねている。 *市民展用空間の利用率が極めて高く、希望者が希
	望期間に利用できない。
お歯に対する考慮	*受付空間や控え室・展示準備室などが用意されていないため、市民展開催時には、仮設で対応せざるを得ない。 *十分なスペースがあるにもかかわらず、建築構造上、内容別・目的別に展示空間を分割して使用することができない。 *無料市民展と有料一般展との動線分離が、うまく
	できていないため、来館者動線が混乱する。
搬出入に対する考慮	*市民展専用の搬出入口がなく、一般資料の搬出入口と兼用しているが、搬出入が重なることがあり、その際は、双方に混乱をきたす。 *市民展展示資料の搬出入の際に、館側の許可を受

けていない外部者等が出入りすることがある。

*市民展専用の資料搬出入口があるが、直接外部に 面しており、庇もないため、雨雪の時は、搬出入 に問題が生じる。

2-9. 自己学習・創作・実習空間

博物館活動の中で、教育・普及活動は、その意義 が極めて大きく、特に、博物館が、地域住民の生涯 学習や社会教育の一拠点となるためには、現状の貧 困な教育・普及活動は、根本的に見直す時に来てい る。

自己学習・創作・実習などは、教育・普及活動の一環であり、これらの場と、これをサポートする専門職員を、博物館が提供することで、地域住民の繰返し利用を促進し、展示活動と一体となった、博物館でなければできない学習と、位置付ける必要がある。

したがって、現状のような不十分な予算・人員・施設・設備から脱却し、カルチャーセンターなどとは違った、オリジナリティーのある活動が必要である。

この場合、当然、専門知識と技術を持ったスタッフと設備の裏付けが必要となり、計画時の十分な配慮が必要となる。

問題項目	問題項目に対する事例
設置・運営	*体験学習室・創作室・実習室などがないため、市
や空間構成	民の要求である体験学習・創作・実習活動の支援
に対する考	ができない。
慮	* 創作室や実習室はあるが、予算・人員の裏付けが
	ないため、殆ど使用されていない。
	* 創作・実習室が一つしかなく、施設的・設備的に
	、さまざまな活動に対応できない。
	*一つの空間を仕切って、複数の活動空間として使
	用する場合、遮音や設備の分割等に問題がある。
	* 来館者の自己学習空間のスペースがない。
	*自己学習空間には、図書とAVプースがあるだけ
	で、実際の資料を手に取って学習したり、学芸員
	が指導・アドバイスするスペースがない。
	* 創作室圖や実習室に、活動をバックアップするた
-	めに必要な、準備室・器材室・控室・更衣室など

	がない。
	*体験学習室・実習室や準備室が、倉庫や職員の作
	業室になってしまっている。
ゾーニング	* プランニングや案内表示が悪く、体験学習室・創
に対する考	作室・実習室などの位置が分かりにくい。
.	*展示空間ゾーンと講堂・創作室・実習室などの、
	建築的な動線分離ができておらず、来館者動線が
	混乱し、展示時間外の使用ができない。
	*学芸員室や事務室から離れているため、対応や管
	理に支障がある。
仕上・構造	*床や壁の仕上材に考慮が足らず、水・薬品などを
・設備に対	使用する時、維持管理に支障をきたす。
する考慮	* 天井高が低く、大型の創作物が扱えない。
	*天井高の不足や、屋外オープンスペースがないな
	どで、陶芸用釜など大型熱機器は使用できない。
	*来館者が自由に操作できる体験実習のための機器
	特に、多少精密な科学機器類は、故障や破損が
	多く発生して困っている。
I	

2-10. 集会・研修室及び講堂

集会・研修室や講堂は、純粋な会議や研修などの活動に使われるたけでなく、展示と連動したオリエンテーション・講演・ビデオ上映・映写会など、教育・普及活動の学習空間としての意味合いが強い。

また、近年は、音楽演奏・観劇、各種パフォーマンスといったイベントにも使われるため、音響・照明などの設備面での充実が必要である。

なお、現在では、空間が用意されていても、活動 内容が希薄な館が少なくない。

問題項目	問題項目に対する事例
設置・運営に対する考慮	*集会・研修や各種催しを行う人員や予算がないため、講堂や集会・研修室を殆ど活用していない。 *講堂はあるが、用途地域制限により不特定多数の一般市民を対象とした集会場としては使えない。 *集会・研修室は、展示用器材や図書・事務用品等の倉庫になっている。
ゾーニング に対する考 慮	*講堂や集会室の催しに参加するためには、常設展もしくは特別展の入館券を買わないと、入場できないプランになっている。

	*展示終了時刻後の使用のとき、館外と直結した講 堂専用の出入口がないため、一般展示出入口から 立看板等サインのみで誘導を行なうが、管理上問 題がある。 *講堂の出入口が一つしかなく、また、出入口前の 溜り場が狭いので、入れ替え時に出入口前が混雑 する。
多目的利用に対する考慮	*大空間の講堂はあるが、小単位のレクチャーを行なう小室がなく、不便である。 *講堂をフレキシブルに利用するため、机・椅子は固定式にしていないが、収納スペースが不足しているため、イベント時に収納しきれない。 *講堂を、やむをえず団体の携帯品置き場や食事場所に提供することがあるが、好ましくない。 *研修室は分割して使用できるが、内部の諸設備も同時に分割され、また、遮音も不十分で、活動に制限を受ける。
設備に対する考慮	*講堂で各種のイベントを実施したいが、控室や楽屋・機材室等がない。 *講堂に、映写設備やオーディオ設備がない。 *映写室の投影窓やスクリーンが低いため、映写時に人影が写る。

2-11. 一般来館者用図書室

一般来館者用図書室は、博物館法による所要室と して安易に計画されるが、開館後、対応すべき人手 や予算がないためサービス活動ができず、利用者も 殆ど無い館は多い。

計画当初から、展示とも連携した積極的な運営ができる背景創りが重要である。

問題項目	問題項目に対する事例
図書の内容に対する考慮	*一般来館者用図書室はあるが、内容が貧弱で、利用者がほとんどない。 *図書内容に博物館としての独自性・専門性がなく、普通の公共図書館で十分である。 *常設展示内容や特別展示内容と殆ど関連がなく、意味が少ない。
管理運営に 対する考慮	*職員も司書もおらず、一般来館者用図書室は閉鎖 したままである。

- *図書充実の経常予算がほとんどない。
- *専用職員がいないため、図書の整理・貸出しチェックもレファレンスもできない。
- *一般来館者用図書室と職員研究用図書室が兼用であるが、時間別・コーナー別利用等の運営配慮がないため、研究に支障が出る。

2-12. 研究用図書室・研究図書用書庫

研究用図書室や書庫は、現在、多くの館で、図書 増によるスペースの不足が深刻であり、十分なスペース確保や増築を念頭において計画を行う必要がある。 なお、学芸員室や研究室との連絡が重要である。

問題項目	問題項目に対する事例
図書増に対する考慮	* 書庫や書棚が一杯で、廊下や学芸員室のデスク上 に図書が山積みされている。 * 書庫や書棚が一杯で、収蔵庫に一部の図書を入れ ている。 * 書庫はすでに一杯で、図書は増え続けいるが、書 庫を増築するスペースがない。
管理・運営に対する考慮	*学芸員室と研究用図書室が併用であるので、研究 用図書室の外部研究来館者への開放ができない。 *図書室の職員が専任でなく、図書の整理がうまく いっていない。 *研究用図書室と一般来館者用図書室が兼用である ため、研究に支障が出ている。
研究室との 連絡に対す る考慮	*書庫が研究室・学芸員室から遠く離れていて、不便であり、図書を書庫に返却せず、研究室・学芸員室に大量に積んでいる。 *研究スペースの近くに書庫や書棚がなく、書庫から研究室への図書の持ち運びが大変である。

2-13. 学芸員室 • 研究室

現状の学芸員の仕事には、調査・研究、収集・保存、展示、教育・普及や、これに伴う渉外事務・打合せ・各種作業が含まれている。

このため、現状では、学芸員室の計画には、調査・研究環境とスペースの確保、他室の連絡、特に事務部門や収蔵部門との関係を念頭においた計画が必要になる。

なお、館類型や館規模などによって、学芸員の活動は異なるため、その内容を十分に把握した上での計画が必要である。

対する考慮 事ができない。 *学芸員室はあるが、一般作業とデスクワークが同室であるため、電話・雑音・人の出入り等が多くデスクで集中できる環境にない。このため、展示企画構想・研究資料整理・原稿書きなどは、会議室等の空いている部屋で行なはざるを得ない。 他室との連 *事務職員と連絡を取らなければならないことが多いが、事務室と離れているため不便である。 *展示企画や研究のために行き来の多い図書室や書庫と距離があり不便である。	問題項目	問題項目に対する事例
*学芸員室はあるが、一般作業とデスクワークが同室であるため、電話・雑音・人の出入り等が多くデスクで集中できる環境にない。このため、展示企画構想・研究資料整理・原稿書きなどは、会議室等の空いている部屋で行なはざるを得ない。 他室との連 *事務職員と連絡を取らなければならないことが多いが、事務室と離れているため不便である。 *展示企画や研究のために行き来の多い図書室や書庫と距離があり不便である。 *学芸員室が、作業上行き来の多い未整理作業室が収蔵庫などと離れていて、不便である。 研究・作業 *設計された個人スペースが狭く、研究やデスクワークでの作業が不自由である。 *増える書籍・資料等のためのスペースが確保されておらず、研究スペースがこれら書籍や資料にと領されて狭い。 *デスクワークスペースがないため不都合である。 *芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが場がなく不便である。 *大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 *倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特		*学芸員室と事務室が同一空間であり、落着いて仕
室であるため、電話・雑音・人の出入り等が多く デスクで集中できる環境にない。このため、展示 企画構想・研究資料整理・原稿書きなどは、会議 室等の空いている部屋で行なはざるを得ない。 他室との連 *事務職員と連絡を取らなければならないことが多いが、事務室と離れているため不便である。 *展示企画や研究のために行き来の多い尽整理作業室や収蔵庫などと離れていて、不便である。 *学芸員室が、作業上行き来の多い未整理作業室や収蔵庫などと離れていて、不便である。 *党芸員室が、作業上行き来の多い未整理作業室や収蔵庫などと離れていて、不便である。 *党芸員室が、作業上行き来の多い未整理作業室や収蔵庫などと離れていて、不便である。 *党芸員室が、作業ののスペースが確保されておらず、研究スペースがこれら書籍や資料に占領されて狭い。 *デスクワークスペースとは別に、作業を行うためのワークスペースがないため不都合である。 *芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが場がなく不便である。 *大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 *倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特別では、第1000円のため、学芸事務室の一部が特別である。 *倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特別では、第1000円のためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。	対する考慮	1 1 1 1
デスクで集中できる環境にない。このため、展示 企画構想・研究資料整理・原稿書きなどは、会議 室等の空いている部屋で行なはざるを得ない。 *事務職員と連絡を取らなければならないことが多いが、事務室と離れているため不便である。 *展示企画や研究のために行き来の多い図書室や書庫と距離があり不便である。 *学芸員室が、作業上行き来の多い未整理作業室を収蔵庫などと離れていて、不便である。 *党芸員室が、作業上行き来の多い未整理作業室を収蔵庫などと離れていて、不便である。 *党芸員室が、作業のためのスペースが確保されておらず、研究スペースがこれら書籍や資料に占領されて狭い。 *デスクワークスペースとは別に、作業を行うためのワークスペースがないため不都合である。 *芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが場がなく不便である。 *大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 *倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特別で		
企画構想・研究資料整理・原稿書きなどは、会議室等の空いている部屋で行なはざるを得ない。 他室との連 *事務職員と連絡を取らなければならないことが多いが、事務室と離れているため不便である。 *展示企画や研究のために行き来の多い図書室や書庫と距離があり不便である。 *学芸員室が、作業上行き来の多い未整理作業室が収蔵庫などと離れていて、不便である。 研究・作業スペースの確保に対する考慮 研究・作業でおらず、研究スペースが狭く、研究やデスクワークでの作業が不自由である。 *ガえる書籍・資料等のためのスペースが確保されておらず、研究スペースがこれら書籍や資料に占領されて狭い。 *デスクワークスペースがないため不都合である。 *芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが場がなく不便である。 *大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 *倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が	1	'1
京等の空いている部屋で行なはざるを得ない。 他室との連 * 事務職員と連絡を取らなければならないことが多いが、事務室と離れているため不便である。 * 展示企画や研究のために行き来の多い図書室や書庫と距離があり不便である。 * 学芸員室が、作業上行き来の多い未整理作業室を収蔵庫などと離れていて、不便である。 研究・作業 * 設計された個人スペースが狭く、研究やデスクワークでの作業が不自由である。 * 増える書籍・資料等のためのスペースが確保されて終い。 * デスクワークスペースがこれら書籍や資料にと領されて狭い。 * デスクワークスペースとは別に、作業を行うためのワークスペースがないため不都合である。 * 芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが場がなく不便である。 * 大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 * 倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が観	1	
他室との連 *事務職員と連絡を取らなければならないことが多いが、事務室と離れているため不便である。 *展示企画や研究のために行き来の多い図書室や書庫と距離があり不便である。 *学芸員室が、作業上行き来の多い未整理作業室が収蔵庫などと離れていて、不便である。 研究・作業 *設計された個人スペースが狭く、研究やデスクラークでの作業が不自由である。 *増える書籍・資料等のためのスペースが確保されておらず、研究スペースがこれら書籍や資料には領されて狭い。 *デスクワークスペースとは別に、作業を行うためのワークスペースがないため不都合である。 *芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが場がなく不便である。 *大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 *倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特		
おに対する 考慮 *展示企画や研究のために行き来の多い図書室や書庫と距離があり不便である。 *学芸員室が、作業上行き来の多い未整理作業室や収蔵庫などと離れていて、不便である。 研究・作業スペースの 一クでの作業が不自由である。 *増える書籍・資料等のためのスペースが確保されておらず、研究スペースがこれら書籍や資料には領されて狭い。 *デスクワークスペースとは別に、作業を行うためのワークスペースがないため不都合である。 *芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが場がなく不便である。 *大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 *倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特別である。		全寺の名いている前産で行なはさるを得ない。
おに対する 考慮 *展示企画や研究のために行き来の多い図書室や書庫と距離があり不便である。 *学芸員室が、作業上行き来の多い未整理作業室や収蔵庫などと離れていて、不便である。 研究・作業スペースの 一クでの作業が不自由である。 *増える書籍・資料等のためのスペースが確保されておらず、研究スペースがこれら書籍や資料には領されて狭い。 *デスクワークスペースとは別に、作業を行うためのワークスペースがないため不都合である。 *芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが場がなく不便である。 *大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 *倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特別である。	他室との連	* 事務職員と連絡を取らなければならないことが&
庫と距離があり不便である。 *学芸員室が、作業上行き来の多い未整理作業室を収蔵庫などと離れていて、不便である。 研究・作業 スペースの ークでの作業が不自由である。 ・増える書籍・資料等のためのスペースが確保されて狭い。 ・デスクワークスペースがこれら書籍や資料にと領されて狭い。 ・デスクワークスペースとは別に、作業を行うためのワークスペースがないため不都合である。 ・芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが場がなく不便である。 ・大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 ・倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特	絡に対する	
庫と距離があり不便である。 *学芸員室が、作業上行き来の多い未整理作業室を収蔵庫などと離れていて、不便である。 研究・作業 スペースの ークでの作業が不自由である。 ・増える書籍・資料等のためのスペースが確保されて狭い。 ・デスクワークスペースがこれら書籍や資料にと領されて狭い。 ・デスクワークスペースとは別に、作業を行うためのワークスペースがないため不都合である。 ・芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが場がなく不便である。 ・大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 ・倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特	考慮	 *展示企画や研究のために行き来の多い図書室や書
収蔵庫などと離れていて、不便である。 研究・作業 *設計された個人スペースが狭く、研究やデスクラークでの作業が不自由である。 *増える書籍・資料等のためのスペースが確保されておらず、研究スペースがこれら書籍や資料には領されて狭い。 *デスクワークスペースとは別に、作業を行うためのワークスペースがないため不都合である。 *芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが場がなく不便である。 *大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 *倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特		-'·
研究・作業 *設計された個人スペースが狭く、研究やデスクワークでの作業が不自由である。 *増える書籍・資料等のためのスペースが確保されて狭い。 *デスクワークスペースとは別に、作業を行うためのワークスペースがないため不都合である。 *芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが場がなく不便である。 *大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 *倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特		*学芸員室が、作業上行き来の多い未整理作業室や
スペースの 確保に対す る考慮 * 増える書籍・資料等のためのスペースが確保されておらず、研究スペースがこれら書籍や資料にも 領されて狭い。 * デスクワークスペースとは別に、作業を行うため のワークスペースがないため不都合である。 * 芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが 場がなく不便である。 * 大型ポスターや図録作りのためのスペースがない ため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 * 倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特	1	収蔵庫などと離れていて、不便である。
スペースの 確保に対す る考慮 * 増える書籍・資料等のためのスペースが確保されておらず、研究スペースがこれら書籍や資料にも 領されて狭い。 * デスクワークスペースとは別に、作業を行うため のワークスペースがないため不都合である。 * 芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが 場がなく不便である。 * 大型ポスターや図録作りのためのスペースがない ため、会議室・集会室等を作業室に転用してしま っている。 * 倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が	TT 000 /b- NK	and the first and a second of the second
確保に対する考慮・資料等のためのスペースが確保されておらず、研究スペースがこれら書籍や資料には傾されて狭い。 * デスクワークスペースとは別に、作業を行うためのワークスペースがないため不都合である。 * 芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが場がなく不便である。 * 大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 * 倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特	1	
ておらず、研究スペースがこれら書籍や資料には 領されて狭い。 * デスクワークスペースとは別に、作業を行うためのワークスペースがないため不都合である。 * 芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが場がなく不便である。 * 大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 * 倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特		
領されて狭い。 * デスクワークスペースとは別に、作業を行うためのワークスペースがないため不都合である。 * 芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが場がなく不便である。 * 大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 * 倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特		
* デスクワークスペースとは別に、作業を行うためのワークスペースがないため不都合である。 * 芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが場がなく不便である。 * 大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 * 倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特	るが思	
のワークスペースがないため不都合である。 * 芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが場がなく不便である。 * 大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 * 倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特		,,,,=,,=,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
*芸員室は一部作業室も兼ねているが、作業用のが場がなく不便である。 *大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 *倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特		
場がなく不便である。 * 大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 * 倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特		
*大型ポスターや図録作りのためのスペースがないため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 *倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特別		
ため、会議室・集会室等を作業室に転用してしまっている。 * 倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特		
っている。 * 倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が	İ	
* 倉庫が不足しているため、学芸事務室の一部が特別	1	
	ľ	
研究設備に *研究のための設備が不足していて、必要な研究が	研究設備に	 *研究のための設備が不足していて、必要な研究が
対する考慮できない。	対する考慮	できない。
*研究のための予算も時間もないため、研究室は教		*研究のための予算も時間もないため、研究室は雑
用室となり、貧弱な設備も使っていない。		用室となり、貧弱な設備も使っていない。

2-14. 写真撮影室•暗室

資料保存や研究のための撮影は、博物館職員が館 内で行うのが原則であるが、最近は、目録等の撮影 や現像・引伸ばしを、外部業者に委託する場合も多 Wo

撮影場所も、展示室・収蔵庫・収蔵前室等で行う 場合もあり、撮影目的や撮影内容を明確にして、計 画する必要がある。

問題項目	問題項目に対する事例
撮影内容や 頻度に対す る考慮	*写真撮影室や暗室はあるが、人手やスペース等の問題があり、実際には殆ど使用していない。 *図録など出版物用の写真は外部委託しているため写真撮影室の利用は研究用が中心となり、利用率が低い。 *写真撮影室がなく、撮影は館内の他室で行なっているが、環境不備・設備不足等の不都合が多い。
資料の安全に対する考慮	*写真撮影室は設計されているが、資料への悪影響や移動の手間を省くため、収蔵庫・収蔵庫前室や展示室で撮影を行なっており、使用していない。 *館内に撮影を行なえるスペースがなく、外部に依託し資料を持ち出して撮影するため、資料の保全に問題がある。 *撮影が何日にも及ぶ場合があるが、撮影室の環境設計が資料の物理的安全に対して十分な配慮がされていない。 *写真撮影室に窓がついており、結露したり、温度変化が大きかったり、資料に悪影響を及ぼしている。 *写真撮影室の換気や遮光が十分でなく、撮影に支障がある。 *写真撮影室が地下にあるが、多湿のため木製床に歪みが生じている。
暗室の利用 に対する考 慮	* 図録や研究資料の写真現像は、外部業者に委託しているため、暗室は、個人の趣味的な現像や引伸ばしにしか使用していない。

2-15. 復元•補修空間

館類型や規模によつて違いがあるが、現状では、 復元や補修に重きを置いている館は非常に少なく、 保存専門職員のいる館も殆どなく、大半の館が専門 業者に委託している。

このため、設置の必要性は十分検討しなければならない。なお、設置した場合は、修復資料の材質・ 形状などに対応できる空間の大きさと設備の充実が

重要となる。

問題項目	問題項目に対する事例
運営に対する考慮	*建設時に修理室が設置されていたが、使用することがないので、他の用途の空間に転用した。 *修理を担当する専門職員がおらず、利用頻度も少ないので、現在使用していない。 *修復専用の空間がなく、写真撮影・資料点検・修復などを同一空間内で行なわなければならないので、作業に支障が出る。
設備に対する考慮	*修理室の温湿度調整・防塵・防災・保安対策等の 考慮や設備が不十分で、修理中の資料の保存状態 が懸念される。 *必要保存環境の異なる資料を同時に修復する場合 双方の保存状態にうまく対処することが困難であ る。

3. 各部門別建築的問題点の館類型別・規模別にみた量的考察(調査Ⅲによる)

建築空間や機能上の問題項目ごとに、それぞれの該当率・問題率(注 5)を類型別・規模別に見たのが(2-1)(2-2)である。

一般的傾向として、類型別の差異は大きいが、規 模別による差は比較的少ない。

ところで、最近10年間に開設した館116館についてのみの問題率を〈図-1〉の右欄でみると、項目によっては問題率が低くなる傾向のものが多少は見られるが、大半の項目は目立った変化がなく、現在のところ、問題点が大きく改善されつつあるとは言えない。

ここで、<図−1>をもとに、各部門別に考察すると、以下の通りである。

3-1. 展示部門

展示に関しては、人文・科学総合系、自然・純粋 科学系、応用科学・産業系等で一般に該当率・問題 率とも高く、視覚芸術系、その他芸術系、宗教系等 では一般に低い。項目別では、特に、展示室内容に 適合しない設計、特別展(企画展)に対する予算的・ 施設的な不足、展示替えに対する配慮の欠如などが 目立っている。

-		***************************************									Mid-Co		142	. 12	10世年
		項目	類型	視覚系	その芸術	宗教系	生活人類系	人・学科 学会系	科学	自 ・ 粋 学 系	応科・業	社現・題系	全体	問題を開発した。	3の変 近10 開館
			館数	66	18	7	139	5	10	10	13	6	274	<5%	<10%
	展	a観覧動線が複雑で、来館者が見落としがちな展示室が	_											-	
	蓝	b観覧動線が一筆書きのため、部分的な展示替えがし						<u> </u>						-	-
	示室の動線ソ	c展示室が多数あり、観覧動線の計画を作りにくい	-	-		 		-	:					-	
		d展示室が小部屋に分かれているため展示しにくい		!			_								
		e企画展に十分に対応できる展示スペースがない		Ŀ		7.									
	ニング	f 大型資料をうまく展示できるスペースがない				41.5	e an	3			1			1	
					_										
		項目	類型	視影術	そ他術系	宗教系	生活人類系	人文科 学系	紫	自然純料等	応料学業系	社現・題糸	全体	問題(間)	
L-			館数	_	18	7	139	5	10	10	13	6	208	<5%	<10%
		a展示替えを行ないたいが、予算的になかなか行なえた		<u> </u>	I	<u> </u>	.					I		-	
]	b設計者が展示内容を理解せず、建物と展示がかみ合わ	bない	11_	I						ļ	ļ		!	-
		c 展示替えの際、展示デザインが建物によって制限をで	うける	Ц_	ı			<u> </u>	i	-				-	
展	常設展	d展示業者の行なった展示に不満がある		11			<u> </u>			<u> </u>	·			-	
展示部門	展	e汚損したレブリカやジオラマが長い間放置される		\Box	<u> </u>						i		ı	-	
' '		f展示物の維持・管理・清掃等がしにくい					i	100			L				-
		gさまざまな来館者に合わせた解説がしにくい		\Box				- solid	.					\	-
		h解説に情報を詰め込みすぎてしまうことがある			\		<u> </u>	<u> </u>					<u> </u>	<u> </u>	
		項目	類型	視覚系	その芸術	宗教系	生活人類系	人文 科 答 答 系	科学系	自然 於純料 学系	応料・業系	社 現・ 題 糸	全体	問題(記事) 年間に	三の変 計10 に開館 自)
l _		·	館数	66	-			_				_	66	<5%	<10%
		a吊り可動間仕切りがない		in.									-		
		b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約7	する										3		
壓	企	c固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が真	性しい				1							→	
展示部門	農	dライティングレールの配置が展示構成に対応できてい	ハない											-1	-
''		e展示壁面に柱があるため、一連の展示が分断される		F										-	-
		f展示壁面が曲面になっている													
		ग्रह	類型	視覚系	その芸術	宗教系	生·類素	人·学科 答系	科学系	自	応料・業 業系	社現・題 会験問系	全体	問題(間動年)	3の変 対10 開館 自)
			館数	27	_	-	-	-	_	-	_	-	27	<5%	<10%
展	市	a来館者動線が常設展・企画展と分離していない												\ \	-
展示部門	市民計列	b市民ギャラリー専用の搬出入口がない		% ·								T		~	
門	ラリ -	c利用者の休憩・準備等の空間がない		a6										7	-
			,		·						1				
		項目	類型	視紫系	そ他術系	宗教系	生活類系	人・対象	科学系	自然純料学系	応料・業系	社現・題糸	全体	問題(間)が開いている。	
L_			館数	27	3	2	44	0	6	5	3	1	91	<5%	<10%
教育・	梨	a十分な活動に対応できる空間・設備・機能を持ってい				12 22			·	— —	— .	1		-	
費	実技	b展示終了後の時間も利用できるような設計になってい		1	ļ		<u> </u>	ļ		ļ	ļ		1		
及	技	c準備室・控室・更衣室等が有効利用されず倉庫化して	ている	i	L	<u> </u>	L	L	L		L	<u> </u>	<u> </u>		
		項目	類型	視覚	そ他術系	宗教系	生活 類系 系	人文 科 学 合 系	科学	自然 純料 学系	応科・ 業系	社現・題	全体	問題を置いる。	3の変 近10 開館 音)
			館数	48	13	5	89	5	7	9	. 11	2	189	<5%	<10%
嫯	P#	a種々の利用に対応できる空間・設備・機能を持ってレ	ハない					- 1.2.			-127			>	-
教育・普及	講堂	b展示終了後の時間も利用できるような設計になってい	いない												-
岌	#	c講堂のみの単独利用ができるように設計されていない	Λ									W.	1	-	

の運営・活動・利用上等で支敵をきたすなど問題であるとした館数の割合を示している。 (2) 「問題率の変動(最近10年間に開館した館)」は、最近10年間に開館した館116 館について、それぞれの項目に対する問題率が、274 館全体の問題率よりどう変動したかを示している。

「くろ%」の欄柱へ、2/1 加玉坪の向起手よりとう変めしたがでからしないる。 「くろ%」の欄は、最近10年間に開始した蛇の問題年が、全体の問題率より0~5%未満変動していることを示しており、「ヽ」は減少、「ノ」は増加、「ー」は変動なしを示している。

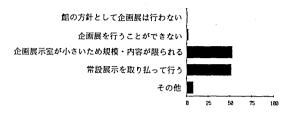
「<10%」の欄は、5~10%未満の変動を示しており、「\」は減少、「一」は変動なしを示している。

- (3) 本アンケートでは、展示部門に関しては、視覚芸術系とそれ以外の類型で異なる問題項目を作成、調査しており、「常設展」の項目では視覚芸術系の調査は行っていない。よって総数208 館の集計となっている。
- (4) (3) と同様の理由により、「企画原」の項目は視覚芸術系のみに調査を行ったため、総数66館の集計となっている。また、「市民ギャラリー」の項目は、視覚芸術系の中で市民ギャラリーのある館への設問の集計のため、総数27館の集計となっている。
- (5)教育・普及部門の「創作・実技」と「講堂」の項目は、それぞれ創作・実技空間と講堂のある館への設問の集計となっているため、「創作・実技」の項目は、総数91館の集計、「講堂」の項目は、総数189館の集計となっている。

図-	- 2	規模別問題項目分布(1)					\$2,977	:: 該:	率 ■	: 7	引題率
Ē	\neg			700	1001	1501	2001	3001	5001	10001	
		項目	規模	1000	1500	2000	3000	5000	10000	以上	全体
	İ										
			館数	49	57	32	40	33	36	19	266
	驫	a観覧動線が複雑で、来館者が見落としがちな展示室が	がある	Ĺ	Ľ	<u> </u>					
	示室の動線ソーニング	b観覧動線が一筆書きのため、部分的な展示替えがし	こくい		L	<u></u>			Ĺ	I	
展示部門	動	c展示室が多数あり、観覧動線の計画を作りにくい						Ü	<u> </u>		
闁	7	d展示室が小部屋に分かれているため展示しにくい							<u> </u>		
1	=	e企画展に十分に対応できる展示スペースがない			5 m ig						2010
	7	f大型資料をうまく展示できるスペースがない			¥3.			3.55			200
		·	Τ	700	1001	1501	2001	3001	5001	10001	
ĺ		項目	規模加	1000	1500	2000	3000	~	10000	以上	全体
ĺ		項日	""	1000	1300	2000	3000	3000	10000	M.	
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	館数	43	46	24	31	25	24	11	204
		a展示替えを行ないたいが、予算的になかなか行なえた	ない								227
		b設計者が展示内容を理解せず、建物と展示がかみ合わ	りない			7					
		c展示替えの際、展示デザインが建物によって制限を	うける	<u>.</u>		- K-					183
展示部門	声	d展示業者の行なった展示に不満がある				F			-	<u> </u>	
肖肖	常設展	e汚損したレブリカやジオラマが長い間放置される		•		<u> </u>					4
		f展示物の維持・管理・清掃等がしにくい									i)
		gさまざまな来館者に合わせた解説がしにくい									No.
		h解説に情報を詰め込みすぎてしまうことがある						-			
ļ			規模	700 ~	1001	1501	2001	3001	· ~	10001	全体
		項目	m"	1000	1500	2000	3000	5000	10000	以上	
			館数	6	11	8	9	8	12	8	62
		a吊り可動間仕切りがない					-	_	7.5		222
				Liveri	1.3.	156	30 C		1	1	
			する	-			3/4 %		-	-	1
展示	¢.	b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約っ									\$
展示部	企画展	b 吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約 c 固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が動	唯しい						1.75		1
展示部門	企画展	b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約 c固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が動 dライティングレールの配置が展示構成に対応できてし	唯しい				A.	8.7			E Eas
展示部門	企画展	b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を割約 c 固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が d ライティングレールの配置が展示構成に対応できてい e 展示整面に柱があるため、一連の展示が分断される	唯しい								
展示部門	企画展	b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約 c固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が動 dライティングレールの配置が展示構成に対応できてし	唯しい						7		
展示部門	企画展	b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を割約 c 固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が d ライティングレールの配置が展示構成に対応できてい e 展示整面に柱があるため、一連の展示が分断される	難しいハない	700	1001	1501	2001	3001	7	10001	
展示部門	企画展	b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を割約 c 固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が d ライティングレールの配置が展示構成に対応できてい e 展示整面に柱があるため、一連の展示が分断される	唯しい	700	1001		2001	! ∼	7		
展示部門	企画展	b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約 c 固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が d ライティングレールの配置が展示構成に対応できてい e 展示壁面に柱があるため、一連の展示が分断される f 展示壁面が曲面になっている	難しいれない。規模が	1000	1500	1501 2000	3000	5000	5001		全体
		b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を割約 c 固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が d ライティングレールの配置が展示構成に対応できてい e 展示整面に柱があるため、一連の展示が分断される f 展示整面が曲面になっている	難しいハない	~	~	1501	· ~	! ∼	5001	以上	
展示		b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約 c 固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が d ライティングレールの配置が展示構成に対応できてい e 展示整面に柱があるため、一連の展示が分断される f 展示整面が曲面になっている 項目 a 来館者動線が常設展・企画展と分離していない	難しいれない。規模が	1000	1500	1501 2000	3000	5000	5001	以上	全体
展示	企画展市民を対し	b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約 c固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が dライティングレールの配置が展示構成に対応できてい e 展示整面に柱があるため、一連の展示が分断される f 展示整面が曲面になっている 項目 a 来館者動線が常設展・企画展と分離していない b市民ギャラリー専用の搬出入口がない	難しいれない。規模が	1000	1500	1501 2000 3	3000	5000	5001 10000 8	以上	全体 25
		b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約 c 固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が d ライティングレールの配置が展示構成に対応できてい e 展示整面に柱があるため、一連の展示が分断される f 展示整面が曲面になっている 項目 a 来館者動線が常設展・企画展と分離していない	難しいれない。規模が	1000	1500	1501 2000 3	3000	5000	5001	以上 4	全体 25
展示		b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約 c固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が dライティングレールの配置が展示構成に対応できてい e 展示整面に柱があるため、一連の展示が分断される f 展示整面が曲面になっている 項目 a 来館者動線が常設展・企画展と分離していない b市民ギャラリー専用の搬出入口がない	難しいハない規模が動動を	1000	1500	1501 2000 3	3000	3001	5001 10000 8	以上	全体 25
展示		b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約 c固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が dライティングレールの配置が展示構成に対応できてい e 展示整面に柱があるため、一連の展示が分断される f 展示整面が曲面になっている 項目 a 来館者動線が常設展・企画展と分離していない b市民ギャラリー専用の搬出入口がない	難しいれない。規模が	1000	1500 4 *****	1501 2000	3000	3001	5001	以上 4	全体 25
展示		b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約では固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が対はライティングレールの配置が展示構成に対応できていき展示整面に柱があるため、一連の展示が分断される ・1 展示整面が曲面になっている 項目 本来館者動線が常設展・企画展と分離していない は市民ギャラリー専用の搬出入口がない で利用者の休憩・準備等の空間がない	難しいい 規 館 数 機 に	1000 1 700 1000	1500 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1501 2000 1501 2000	2001	3001 5000	5001 10000 8 5001 10000	以上 4 10001 以上	全体 25
展示部門	市民をジー	b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約 c 固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が d ライティングレールの配置が展示構成に対応できてい e 展示整面に柱があるため、一連の展示が分断される f 展示整面が曲面になっている 項目 a 来館者動線が常設展・企画展と分離していない b 市民ギャラリー専用の搬出入口がない c 利用者の休憩・準備等の空間がない	性しいい 規制を 類し、 類は、 数 規作・数	1000	1500 4 4 1001	1501 2000 3	2001	3001	5001 10000 8	4 4 10001	全体 25
展示部門		b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約 c 固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が d ライティングレールの配置が展示構成に対応できてい e 展示整面に柱があるため、一連の展示が分断される f 展示整面が曲面になっている 項目 a 来館者動線が常設展・企画展と分離していない b 市民ギャラリー専用の拠出入口がない c 利用者の休憩・準備等の空間がない	難 い 知 規 が 知 規 が 数 が は に 数 が の の の の の の の の の の の の の	1000 1 700 1000	1500 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1501 2000 1501 2000	2001	3001 5000	5001 10000 8 5001 10000	以上 4 10001 以上	全体 25 全体 91
展示部門	市民智力・創作・	b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約 c 固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が d ライティングレールの配置が展示構成に対応できてい e 展示整面に柱があるため、一連の展示が分断される f 展示整面が曲面になっている 項目 a 来館者動線が常設展・企画展と分離していない b 市民ギャラリー専用の搬出入口がない c 利用者の休憩・準備等の空間がない 項目 a 十分な活動に対応できる空間・設備・機能を持ってい b 展示終了後の時間も利用できるような設計になっている	性しいい 規模m 動 類規権m 数いいいいい	1000 1 700 1000	1500 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1501 2000 1501 2000	2001	3001 5000	5001 10000 8 5001 10000	以上 4 10001 以上	全体 25
展示	市民をジー	b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約 c 固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が d ライティングレールの配置が展示構成に対応できてい e 展示整面に柱があるため、一連の展示が分断される f 展示整面が曲面になっている 項目 a 来館者動線が常設展・企画展と分離していない b 市民ギャラリー専用の拠出入口がない c 利用者の休憩・準備等の空間がない	性しいい 規模m 動 類規権m 数いいいいい	1000 1 700 1000	1500 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1501 2000 1501 2000	2001	3001 5000	5001 10000 8 5001 10000	以上 4 10001 以上	全体 25 全体 91
展示部門	市民智力・創作・	b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約 c 固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が d ライティングレールの配置が展示構成に対応できてい e 展示整面に柱があるため、一連の展示が分断される f 展示整面が曲面になっている 項目 a 来館者動線が常設展・企画展と分離していない b 市民ギャラリー専用の搬出入口がない c 利用者の休憩・準備等の空間がない 項目 a 十分な活動に対応できる空間・設備・機能を持ってい b 展示終了後の時間も利用できるような設計になっている	難いない 規 館 規 規 館 数 は な な い な い い い い る い い い い い い い い い い い	1000 1 700 1000	1500 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1501 2000 1501 2000	2001	3001 5000	5001 10000 8 5001 10000	以上 4 10001 以上	全体 25 6 120 25 25 25 25 20 20 27 27 31 31 31 31 31 31 31 31 31 31 31 31 31
展示部門	市民智力・創作・	b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約 c 固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が d ライティングレールの配置が展示構成に対応できてい e 展示整面に柱があるため、一連の展示が分断される f 展示整面が曲面になっている 項目 a 来館者動線が常設展・企画展と分離していない b 市民ギャラリー専用の搬出入口がない c 利用者の休憩・準備等の空間がない 項目 a 十分な活動に対応できる空間・設備・機能を持ってい b 展示終了後の時間も利用できるような設計になっている	性しいい 規模m 動 類規権m 数いいいいい	1000 1 700 1000	1500 4 2001 1001 1500 11	1501 2000 3 1501 2000	2001 3000 17	3001 5000 10	5001 10000 8 5001 10000	以上 10001 以上 10	全体 25 6 25 26 27 24 24 24 24 21 21 21 21
展示部門	市民智力・創作・	b吊り可動間仕切り用レールの配置が展示構成を制約では固定された空調吹出口等のため、自由な展示構成が dライティングレールの配置が展示構成に対応できてい e 展示整面に柱があるため、一連の展示が分断される f 展示整面が曲面になっている 項目 a 来館者動線が常設展・企画展と分離していない b 市民ギャラリー専用の搬出入口がない c 利用者の休憩・準備等の空間がない 項目 a 十分な活動に対応できる空間・設備・機能を持ってい b 展示終了後の時間も利用できるような設計になってい c 準備室・控室・更衣室等が有効利用されず倉庫化して	性いない 規「館」 類 横 m 数いいいてい 規「館」 数 横 m 数いいいてい 規「	700 1000 16 .700 1000	1500 4 1001 1500 111 1001 1500	1501 2000 3 	2001 3000 17 2001 3000	3001 5000 10 3001 5000	5001 10000 16 5001 10000	以上 4 10001 以上 10001 以上	全体 25 25 25 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24
展示部門教育・普及	市民智力・創作・		性いな 規類 館類規模に数いいる 模に数いいる	700 1000 16	1500 4 1001 1500 11	1501 2000 3 	2001 3000 17 2001 2001	3001 5000 10 3001	5001 10000 8 5001 10000 16	以上 10001 以上 10001	全体 25 25 25 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24
展示部門教育・普及	市民智力・創作・		性いな 規 館 規 館 なない 規 館 ないい る 模 数いいる	700 1000 16 .700 1000	1500 4 1001 1500 111 1001 1500	1501 2000 3 	2001 3000 17 2001 3000	3001 5000 10 3001 5000	5001 10000 16 5001 10000	以上 4 10001 以上 10001 以上	全体 25 25 25 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24
展示部門教育・普及	市民キジー		栓いな 規 館 規 館ないいて 規 館ないない 規 館ないい	700 1000 16 .700 1000	1500 4 1001 1500 111 1001 1500	1501 2000 3 	2001 3000 17 2001 3000	3001 5000 10 3001 5000	5001 10000 16 5001 10000	以上 4 10001 以上 10001 以上	全体 25 25 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24
展示部門	市民智力・創作・実技		栓いな 規 館 規 館ないいて 規 館ないない 規 館ないい	700 1000 16 .700 1000	1500 4 1001 1500 111 1001 1500	1501 2000 3 	2001 3000 17 2001 3000	3001 5000 10 3001 5000	5001 10000 16 5001 10000	以上 4 10001 以上 10001 以上	全体 25 25 25 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24

(1) 本論文では、集計・分析に使用した延床面積を「全国博物館総覧:全日本博物館協会編」より参照したため、延床面積の不明の館が全体で8節あり、「規模別問題項目分布」において、不明なも館を除いて集計を行っている。そのため、それぞれの部門・項目の全館数は、「類型別問題項目分布」での全節数と異なっている。

図-3 企画展示スペース不足への対応方法



3-1-1)展示室の動線・ゾーニング 項目別にみると、次の通りである。

い該当率・問題率ともに、「e. 特別展に対応できる展示スペースがない」と「f. 大型資料を展示できるスペースがない」の2項目がかなり高い。

2)「e. 特別展に対応できる展示スペースがない」には約半数の館が該当しており、これを問題視している館も約1/3に達している。

"上記に対する館側の対応策を見ると、<図-3>のごとくで、常設展を取り払って行うケースが 殆どであり、建築的問題が活動に大きな影響を与えている。

")「f. 大型資料を展示できるスペースがない」は、該当率が半数弱近く、問題率も1/4近い類型が多く、大型資料への建築的対処も一つの問題となろう。ただし、類型により問題率に大きな差異が見られる。

3-1-2) 常設展空間(注6)

常設展示空間について、項目別にみると、次に示す通りである。

"総じて、各問題項目の中で、「a. 展示替えを 行いたいが、予算不足で行えない」、「b. 建物と展 示内容がかみ合わない」、「c. 展示替えの際、展示 デザインが建物によって制限をうける」、「g. さま ざまな来館者に合わせた解説がしにくい」などの該 当率が、一般に高い。

"上記の各項目は、問題率も比較的高く、常設展示についての一般的な建築的問題点を示していると言える。

"一方、該当率・問題率ともに、各項目とも類型による差が大きく見られ、資料の性格により問題の所在が異なる。中でも自然・純粋科学系や応用・科学産業系の問題率が高く、これらの類型では常設展示に多くの問題を抱えていることが伺える。

なお、「b. 建物と展示内容がかみ合わない」と「c. 展示替えの際、展示デザインが建物によって制限をうける」に該当する館の具体的な建築的問題は、〈図-4〉のごとくである。

また、「8. さまざまな来館者に合わせた解説が しにくい」に該当する館の、博物館側の対応方法は、 〈図-5〉のごとくである。

3-1-3)特別展(企画展)空間(注7)

企画展のための展示スペースが不足していることは前述の通りであるが、細部については、いずれの項目も、該当率・問題率ともに一般に低い。

3-1-4) 市民ギャラリー空間(注8)

市民ギャラリーの設置は視覚芸術系の特色であり、他の系には殆ど見られない。

ところで、項目により該当率には大きな開きが見られるものの、館職員側から見た限り、問題率は比較的低くなっている。

図-4 建物と展示との不適合による問題

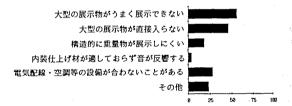
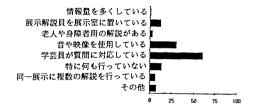


図-5 展示解説への対応方法



3-2. 教育•普及部門

教育・普及活動を、本格的に生涯教育や社会教育の一環として位置付けて活動している館は稀であり、 建築以前の基本的な問題が大きい。

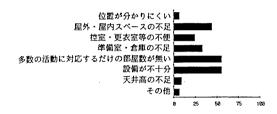
したがって、建築的問題点の該当率や問題率が少なくても、現状が良好な状況にある訳ではない。項目別にみると、次の通りである。

3-2-1) 創作•実技•実験空間: (注9)

創作・実技・実験空間を有するサンプルが少ないため、類型別の分析はできないが、全体的に見ると、次の通りである。

- い 「a. 十分な活動に対応できる空間・設備・機能を持っていない」の該当率と問題率が最も高い。
- *) 上記の具体的な問題的は、<図-6>に示すのごとくで、今後、益々建築的対応が必要であると思われる。

図-6 創作・実技・実験空間の具体的な問題



3-2-2) 講堂(大集会室):

項目別にみると、次の通りである。

"「a. 種々の利用に対応できる空間・設備・機能を持っていない」の問題率が、約1/3に達しており、空間・設備・機能に対する建築上の不備が指摘されていると言えよう。

3-3. 調查 • 研究部門:

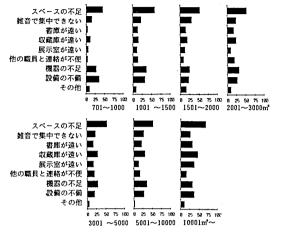
調査・研究部門も、現状は極めて不十分で、殆ど 行われていない館が大半である。このことは、学芸 員室・研究室の問題点として端的に現れている。

3-3-1) 学芸員室•研究室:

学芸員室・研究室の問題について、殆どの類型において、専用の学芸員室や研究室がないことと、スペースの不足を指摘する館が最も多く、今後の予算的・建築的充実が大切である。

ここで、規模別に学芸員室(研究室)の建築的問題点を見ると、〈図-7〉のごとくで、規模にかかわらずスペースの不足を訴える館が最も多いものの、大規模館ほど、書庫・収蔵庫・展示室等との距離を問題とする館が多くなる傾向が見られる。

図-7 規模別の学芸員室(研究室)の問題



5. まとめ

本報告では、博物館職員の立場を中心に、現状の博物館建築に関する建築計画的問題点の一端を〈文-1〉に引き続いて明らかにした。

その結果を見ると、各問題項目は、博物館類型別によって該当率・問題率のひらきはあるものの、かなりの項目で、建築上の問題が運営・活動上の問題となっていることが明らかになった。

さらに、最近10年間に設立された博物館で見ると、項目によっては該当率・問題率が低くなっているものも多少はあるが、未だに多数の項目で建築的対応が十分でなく、同じ問題が繰り返されている傾向のあることを示した。

したがって、今後、これらの問題点を建築設計・計画のうえで改善することが必要・不可欠と考えられる。なお、ここで、得られた結果は、今後、博物館を計画・設計する際有効な具体的資料になると思われる。

最後に、本研究に御協力頂いた博物館職員の方々、 ならびに研究室の諸兄に、深く感謝致す次第である。 注

注1:調査 I・調査 II の内容は以下の通りである。 〔調査 I 〕:1981年~1990年の間に、全国の博 物館197館において、見学・視察に際して博物 館職員より指摘された、博物館の建築に関する 問題点を、収集した調査。考察は、各部門別に 整理して行なったものである。

なお、本報告では、一般に適切に対処できている空間構成については言及していない。また、問題の具体的事例は、その問題点に関する実際に起きている実例であり、総ての館で発生している事例ではない。

〔調査Ⅱ〕:1989年~1990年にかけて、全国博物館58館の学芸員や職員に対して行った、博物館の建築上の問題点に関する面接ヒアリング調査。考察は、各部門別に整理して行ったものである。

なお、調査票は調査 I を基に作成し、網羅的 に建築についての問題点を調べたものである。 本報告では、その内、比較的目立った事例について取り上げている。

注2:調査Ⅲの内容は、以下の通りである。

「調査IV〕: 1990年10月に行った、延床面積700 ㎡以上の全国博物館807館に対する、調査票郵送アンケート調査。なお、回収館は518館であったが、このうち、調査した各項目総ての記述内容が、一応完全と判断された274館のみについて分析を行っている。

分析・考察方法は、まず、対象博物館基本属性(館類型・規模・経営主体・開館年、学芸職員数・来館者数等々)を考察し、次いで、各建築的問題項目ごとの該当率・問題率(注5の通り)と、問題の原因や博物館側の対応策等について分析した。

なお、調査内容と調査能力からみて、調査対象館数を一定限度以下にするためと、これまでの調査から施設的・設備的にみて調査内容項目に対して余り適切でないと思われる小規模館を除外するため、本研究では、便宜的に700㎡未満の館を調査対象外とした。

注3:ここでは、既報の<文-2>・<文-3>で 示した野村式館類型によっている。具体的内容 は、収蔵・展示資料の性格によって博物館を類型化し、さらに、この類型の合理性を、博物館の諸活動と利用実態から検証したもので、視覚芸術系、その他芸術系、宗教系、生活・人類学系、人文・科学総合系、科学総合系、自然・純粋科学系、応用科学・産業系、社会現象・社会問題系の9類型で、これに動物成育系、植物生育系、水族生育系、環境総合系の4類型を加えた計13類型である。なお、本研究では、動物、植物、水族などの生物生育系、およびエコミュージアムで代表される環境総合系は含んでいない。

- 注4: 既報の<文-3>で示したごとく、現状では、 博物館の特性が、野村式館類型と延床面積によっ て、一応明確に分類できることに基づいて、こ の2つの側面から考察した。
- 注 5:該当率とは、その問題項目に該当した館数の 全館数に対する割合を示す。また、問題率とは、 その項目が現在の館の運営・活動・利用上に支 障があるなど、現実に問題であるとした館数の 全館数に対する割合を示している。
- 注6:今回のアンケートでは、展示部門に関しては、 視覚芸術系とそれ以外の類型では、異なる問題 項目について実施しており、調査項目数の限界 から、「常設展」の項目では、視覚芸術系の調 査は行っていない。
- 注7:注6と同様の理由により、ここでの項目は、 視覚芸術系のためだけに設定されたものである。
- 注8:ここでの該当率・問題率は、市民ギャラリー を所有している館についての比率であり、調査 全館に対する比率ではない。
- 注9:ここでの該当率・問題率は、創作・実技・実 験空間を所有している館についての比率であり、 調査全館に対する比率ではない。

参考文献

<文-1>:野村東太:

博物館各部門の建築的問題点の現状 [I] (共用部門・サービス部門・収蔵保管部門に ついて)

-博物館に関する建築計画的研究(IV)-; 全日本博物館学会雑誌17巻1・2合併号-論 文、1992.6.

< 2 > : 野村東太、池田千春、柳沼良一 : 資料内容による博物館の類型化に関する研究

-博物館に関する建築計画的研究(Ⅱ)-; 全日本博物館学会雑誌11巻2号-論文、1986.

3.

<文-3>:野村東太、柳沼良一:

博物館における諸活動と利用の特性、および 資料・活動・利用に即した博物館類型化の研 究

-博物館に関する建築計画的研究(Ⅲ)-; 全日本博物館学会雑誌12巻1号-論文、1986. 12.